

「全少」を日本一研究する指導者による提案

# ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗

第42回



常にアンテナを張る (その2)  
幸運が舞い込んでくる

## ★偶然の発見とは

1839年、アメリカ人のグッドイヤーが研究室のストーブの前で眠りこけていたとき、何かの拍子にゴム靴に薬品がこぼれ、目を覚ますとゴムが変性していることに気付き、加硫ゴム（生ゴムの欠点を解消し、現在普通に使用されているゴム）を偶然発見しました。

また、1928年、イギリス人の細菌学者フレミングは、細菌の培地に誤ってカビを生やしてしまいます。すると、カビの周りだけ細菌が生育していないことに気付き、のちにカビの抽出物から抗生物質「ペニシリン」を発見しました。

偶然に思いがけない発見をすることを「セレンディピティ (serendipity)」と言います。科学者が間違えて薬品を混ぜて新しい化合物を発見したり、失敗したと思って放っておいたゴミが新しい化合物になっていたり、歴史的な発見はそのほとんどがセレンディピティです。

先の二例の他にも、スパンサーによる電子レンジの発明（マイクロ波を発生するマグネトロン<sup>マグネトロン</sup>の近くにいたらポケットのチョコが溶けていた）、ノーベルによるダイナマイトの発明（少しの振動で爆発する液体のニトログリセリンがこぼれて、偶然、珪藻土<sup>けいそうど</sup>にしみこんで安定していたことからダイナマイトを発明）、メストラルのマジックテープの発明（犬の毛にオナモミが付いていたことから顕微鏡で見たとこ、オナモミのフックと犬の毛の輪がしっかりひっかかっていたことからマジックテープを発明）など、あげたらキリがありません。

## ★幸運が舞い込んでくる

ただし、それらがすべて、ただの偶然かというところではありません。科学者らがこれでもかこれでもかと何度失敗しても諦めず、24時間そのことだけを考え、たゆまぬ努力の結果として初めて訪れた偶然なのです。必然に近い偶然とでも言えるでしょうか。

つまり、よく準備し、アンテナを張っていたところにだけ幸運が舞い込むのです。よく準備していない人には、その幸運が訪れることはありませんし、もし仮に訪れても、その価値に気付かないで見過ごしてしまうことでしょう。

細菌学者パスツールは、「幸運は用意された心のみ宿る (Chance favors the prepared mind)」と言っていますし、ノーベル賞受賞者の小柴昌俊先生はご著書『物理屋になりたかったんだよ』(朝日新聞社)の中(14ページ)で、次のようにおっしゃっています。

「たしかにわたしたちは幸運だった。でも、あまり幸運だ、幸運だ、とばかり言われると、それはちがうだろう、と言いたくなる。幸運はみんなのところに同じように降り注いでいたのではないか、それを捕まえられるか捕まえられないかは、ちゃんと準備していたかいなかったかの差ではないか」

## ★組手におけるアンテナとは

昨年、誠明館（神奈川県厚木市）の内田正晴先生主催の組手練習会に参加させていただきました。閉会式の講評で、土佐樹蒼彦先生（国際玄制流空手道連盟武徳会・会長）が、以下のように含蓄のあるお

話をされました。

「常にアンテナを張って、チャンスがあればそれをもぎ取ろうと言う気持ちが大切です。それは練習の時から同じです。相手の攻撃の後、ポーズと止まって見ているのではなく、絶対チャンスを逃さないというアンテナを練習の時から張っていれば、本番の試合でも自然と技が出るはずですよ」

積極的に点を取ろうという気構えがあれば、相手か自分がミスした直後、相手の技が出た瞬間、相手が出てきた瞬間、相手か自分が間合いに入った瞬間など、頭で考えるより先に無意識下で体が動いてしまうはずですよ。チャンスを見てから「こういうときは、行った方がいいんだっただよな？」なんてじっくり考えているとチャンスをみすみす逃してしまいます。様々なチャンスは絶え間なく雨のように、みんなに平等に降り注いでいます。しかしながら残念なことに、ほとんどの人はその雨に気付いていません。顔に直接付いた雨粒にさえ気付かない人もいます。アンテナを張って、万全の体制で気構えしている人しかチャンスには気付けないのです。

### ★日々の生活にたくさんの宝が

常にアンテナを張っていれば、自分とは無縁の事

柄と思えるようなことから大きなヒントが得られますし、そのような貪欲さが問題解決の突破口になっていきます。受容体を鋭敏にしておくことで、全く関係ないと思われるようなことからでも素晴らしいアイデアをキャッチできる、そんな高感度アンテナを張ることができるのです。“自分は恵まれていない”、“誰も教えてくれない”などと嘆くのではなく、真っ黒なサングラスをはずしてよく周りを見渡すと、日常にたくさんの宝が埋もれていることに気付くことでしょう。周りの人と同じように過ごしていると、それら「お宝」に気付くことができないのです。

#### PROFILE

■渡辺貴斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。7歳から父である館長から空手の手ほどきを受ける。児童心理学や成功哲学を研究して子どもたちの「心をつくる」指導法に切り替え、2013年全少5名入賞、2014年・2015年と2年連続で7名入賞、2016年5名入賞、2017年9名入賞させ、全国最多入賞数の記録更新中。道場経営でも、一道場で350名を超える大躍進を続ける。



空手道場 養正館 / 静岡県沼津市本町 11-12



## Column 錬成大会 決勝同門対決で全国二連覇！ 6チーム入賞！

7月28日、全日本少年少女武道錬成大会が日本武道館で開催されました。養正館では全少のためにも、この大会に積極的に参加しています。全少に行けなかった選手も錬成に出場すれば、全少出場選手と一緒に強化練習に参加できるので、レベルを落とすことはありません。



▶ 3・4年の部A 優良賞(2位) 養正館D  
(写真左から、安齋みな花・阿部心春・林 颯希・中島暖太)

大勢で参加することで道場全体のレベルの底上げができますし、チームで練習することで協調性を学べます。

1・2年の部Bでは、養正館チームが同門対決で決勝戦を戦い、優秀賞(1位)と優良賞(2位)を独占！

昨年に続き全国二連覇！ 6チーム入賞！

- ◀ 1・2年の部B 優秀賞(1位) 養正館B  
(写真右から工藤彩音・安宗春輝・竹内相志)  
1・2年の部B 優良賞(2位) 養正館D  
(写真左から三井詠一朗・佐々木琉生・向山颯良・岡嶋玲)



1・2年の部A 努力賞(5位)  
養正館A (吉塚樹愛・堤あのん・鈴木沙和・井野裕斗)

3・4年の部B 敢闘賞(3位)  
養正館C (勝又蒼唯・永井皇羽・松本颯哉)

5・6年の部B 努力賞(5位)  
養正館B (大河美夕・榊原歩乃華・望月結以)